

# 当院の図書室機能・業務の変遷と今後の課題

篠原 澄子, 田附 満, 佐藤 正幸, 伊藤 律子, 石塚 淳,  
檜山 繁美, 関谷 千尋, 秦 温信, 佐野 文男

札幌社会保険総合病院 医療情報部

病院図書室の利用に関するアンケートを実施し、その結果から電子媒体による所蔵図書の管理および資料の検索の他図書業務全体を見直し、図書室の環境を整備した。

キーワード：病院図書室、院内ラン

## はじめに

病院図書室は様々な情報の提供の場として病院機能にとって不可欠のものであるが、病院の規模によってその位置付けは一様ではなく、問題点も少なくない。今回、当院における図書室の機能・業務について検討し知見を報告する。

## 方法

平成2年厚別に札幌社会保険総合病院として開院した当時、図書室は医事課の所属であり図書業務は病歴業務の合間にこなしてゆく状態であった。それ以来業務の改善を計りながら現在に至っているのでその変化を経時的に分析し(表1)、問題点を検討した。

## 結果

平成6年病歴の見直しで、いままで職員1名での業務であったところ派遣嘱託員1名を採用しデータベース化を導入した。1年遅れで図書業務もカード管理を止め、データベース化を図り今までであった蔵書(約2,000冊)を約6ヶ月かけ入力した。その際分類は日本十進分類法を用いた。

平成8年図書委員長(副院長)のもと医局への図書室利用状況のアンケート調査を行った(図1)。利用状況は1月に0~5回が62%、6~10回が13%であり頻繁に利用されないことがわかった。利用しにくい理由に閲覧スペースが狭いので調べ物が出来ない、情報を得られる場所として機能的ではない、という意見が圧倒的であった。アンケートの結果を

表1 図書室の歩み

| 年月      | 業務内容  | 職員数                   |
|---------|---|-----------------------|
| 平成2年    | 病歴室主体   | 職員1名                  |
| 平成6年8月  | 病歴室主体、データベース化   | 職員1名、派遣1名             |
| 平成8年7月  | アンケート(医局)<br>改善策実施  |                       |
| 平成9年4月  | 図書室独立(庶務課管轄)<br>洋雑誌の個人購入(150万円の削減)<br>簡易テープ製本(50万円の削減)<br>文献検索、スライド作成 | 職員1名、嘱託1名<br>(医局秘書兼務) |
| 平成10年4月 | 医療情報部管轄<br>「図書だより」発行<br>医局コンピュータ管理<br>北海道ライブラリー研究会に入会                 | 職員2名                  |
| 平成14年8月 | バーコード管理   |                       |
| 平成15年8月 | 研究支援システム  |                       |

踏まえ、必要かつ最新の情報を得られるように全体を見直す準備にはいった。

まず、図書室書架に保管する本は5年間とし、古くなった順に中央倉庫に保管することになった(10年間)。雑誌はいままで科別で並べていたが、全科をまとめ和雑誌は五十音順、洋雑誌はABC順に並べ替えて整理した。また、学会誌が少なく文献依頼の経費がかかることから院長、両副院長より学会誌を寄贈してもらい文献の充実を図った。ビデオテープの保管・貸し出しも始めた。しかし、狭いスペースでの保管は問題となって残った。平成9年に病歴業務が医療情報管理室に移行されたと同時に図書室の所属が庶務課に変わり医局秘書(院長、両副院長の秘書もかねる)との兼務になった。病歴がなくなったことで可動式の書架をひとつはずし閲覧スペースを広くした。コンピュータによる文献検索を導入し、簡素化と速さを図った。

図書予算については年間の雑誌購読費に着目し洋雑誌の購入方法を考え、出来る限りの冊数を医師個

人で学会入会をしてもらい海外と直接個人購入をする形態をとった。その結果、雑誌の年間購読費を約1,500,000円削減することが出来た(図2)。加えて製本作業も見直し外注をやめ製本テープでとめるだけの簡易製本にした(図3)。結果約500,000円の削減になりさらにハードカバーではなくなったことによりコピーがしやすくなった。

文献検索にはMEDLINEと医学中央雑誌のオンラインを導入し迅速さを図った。平成10年には「医療情報部」の管理下になり(図4)、医局のコンピュータ管理を併せて行うことになった。また、「医療連携室」を通じ地域の医療機関に図書室を開放し「図書だより」を年数回発行して新刊本の紹介などを行い他院との交流を図った。

「北海道病院ライブラリー研究会」に入会し積極的に情報の交換に努めた結果、多くの病院と相互貸借ができるようになり、文献の入手の幅が広がった。平成14年からはすべての蔵書のバーコード管理を導入した。「医療情報部」で作成したバーコード管理

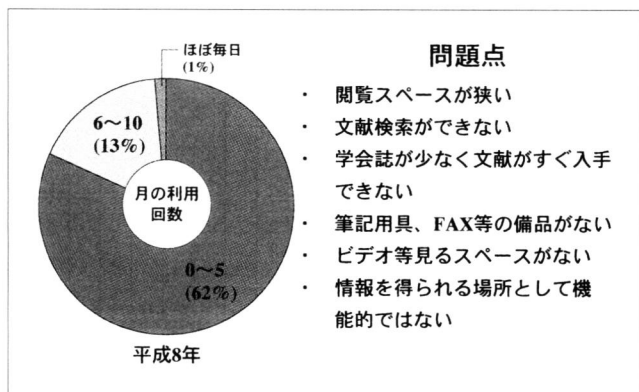


図1 医師の図書室利用状況アンケート

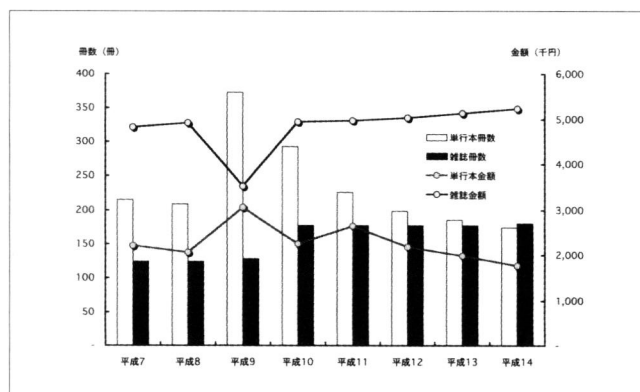


図2 単行および雑誌の推移

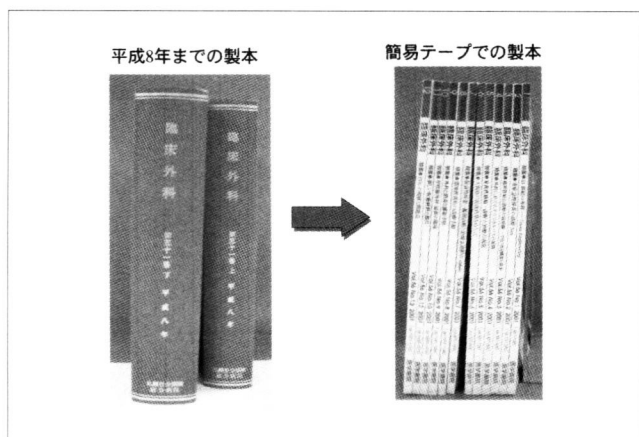


図3 簡易製本

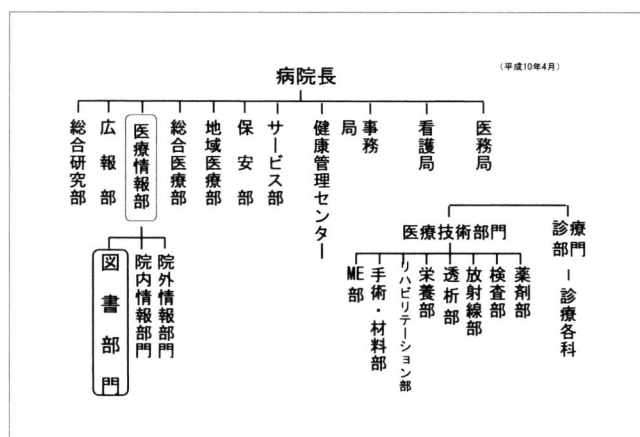


図4 札幌社会保険総合病院組織図

システムにより貸し出し、返却が簡素化された。  
現在、図書室は所蔵図書3,752冊、洋雑誌68冊、和雑誌113冊、コンピュータ9台（内文献検索用2台）、AV装置2台を有することになった。

### 考 察

病院図書は病院の規模によりその業務も多様であり、それ故に機能としての工夫が必要となる。利用者のニーズに合わせて当院の図書室の機能も変遷してきたがファイルメーカー pro による独自の図書管理システム<sup>1)</sup>を作成したことが業務の流れを円滑にした第1歩であったと考える。今後は、新着図書等の図書情報の配信をオンラインで行えるよう院内ラン<sup>2)</sup>を広く活用することが有用と思われる。

さらに、今日のインターネット環境下において

オンラインジャーナルなどの進展は目覚しいが、このような状況に対応して最新の情報発信の場になるように努めたい。

### おわりに

当院の図書室機能・業務の変遷について述べた。図書室業務の見直しや環境の整備についてのたゆまない努力が必要と考えられた。

### 文 献

- 1) 村山文規：病院図書室の実務～図書室紹介～、日本病院会雑誌、1998
- 2) 高橋圭介：コンピューターで出来る図書室の仕事、病院図書室ディスクマニュアル、2001

## Changes in the function and business of our hospital library and future issues

Sumiko SHINOHARA, Mitsuru TATSUKI, Masayuki SATO  
Ritsuko ITO, Atsushi ISHITZUKA, Shigemi HIYAMA  
Chihiro SEKIYA, Yoshinobu HATA, Fumio SANÔ

Department of Medical Information, Sapporo Social Insurance General Hospital

We carried out a questionnaire regarding the use of our library. Based on the results, we reviewed the running of the library including the management of stocked books by means of electronic media and the search for documents and, in addition, the general library environment was improved.